



私の本棚から一心に響いた本一

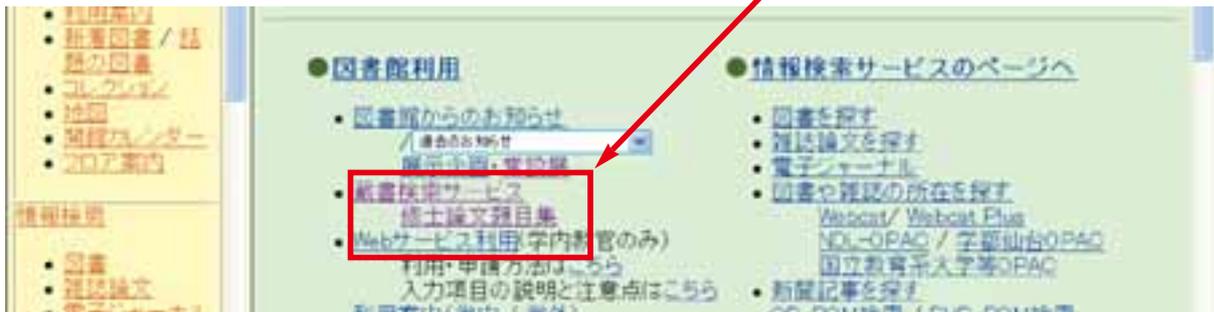
◎図書館からのインフォメーション	
ホームページを活用しよう！「ホームページ紹介part. 3」	2
図書館内 施設利用状況	4
大塚文庫について、本学教員等著作寄贈図書一覧	5
◎図書館の展示企画の報告	
平成18年度の特別展示企画と常設展示の報告	6
◎特集記事 私の本棚から一心に響いた本一	
高尾展明	8
前田喜一、芳賀 茂	9
若生東英、庄司欽也	10
阿久津早紀、岩森 俊	11
◎学生の読書室～私が選ぶこの一冊～（第6回）	12
◎新任教員からひとこと「私と図書館」	
異空間に浸る	14
◎表紙の解説 葉緑体を持たない植物ーギンリョウソウー	15
◎平成19年度開館カレンダー	16

図書館からのインフォメーション

■ ホームページを活用しよう！ ホームページ紹介(part.3)

・「修士論文（宮城教育大学）」の利用方法

1. 修士論文は、閉架式の書庫^{註*}に保管しています。(利用者のみなさんは入庫できません)そこで、先に利用希望の論文を下記要領で検索します。
2. 図書館ホームページのトップページより、ページの中央、「修士論文題目集」をクリックします。



3. 「提出年度」や「氏名」、「論文題目」から、目的の論文を探します。
4. 提出年度が不確かなときは、**全タイトル** をクリックして全てを表示させます。

修士論文題目集

This screenshot shows the search interface for the Master's Thesis Title Collection. It features a grid of search filters for years (e.g., 2006年度, 1997年度) and a search box. A callout box explains that users can enter keywords or names and click on the search box. Another callout box explains that pressing the Ctrl and F keys simultaneously opens the search box.

年度	登録番号	論文題目
平成元年度	1	
平成元年度	2	
平成元年度	3	
平成元年度	4	清野千秋 検索効率にみる長期記憶の構造について

5. 目的の論文が出るまで **次を検索** をクリックして探します。

This screenshot shows the search results page. A search box is overlaid on the results, with the '次を検索' (Next Search) button highlighted. The search results table below shows various entries with their registration numbers and titles.

年度	登録番号	論文題目
平成6年度	25	八巻一智 Ridesite-montegiarine系新物り合成
平成5年度	26	木村伸 アーロン・コープランドのピアノ作品に関する演奏と研究
平成5年度	27	鈴木敦子 ショパンの1841年代のピアノ作品に関する一考察
平成5年度	28	鈴木地香 チャイコフスキイ作曲バレエ音楽「白鳥の湖」と「歌」の森の美女」の研究
平成7年度	30	音由紀子 ショパン作曲 ピアノ協奏曲第1番 作品11の演奏と研究
平成9年度	27	大山久美子 レスピーキの作品から、歌曲とアリアの演奏と研究
平成8年度	28	佐藤アツカ ショパン作曲 ピアノ協奏曲第2番 作品21の演奏

図書館からのインフォメーション

6. 目的の論文が見つかったら、カウンター前テーブル上の「修士論文閲覧票」に記入しましょう。これをカウンターにご提出下さい。係員が閉架書庫から出してくれます。

修士論文閲覧票		
閲覧者氏名 ()		学籍番号 ()
提出年度	番号	著作名
平成〇年度	〇〇	佐藤花子

※ 貸出はいたしません。複写については著作者の許諾が必要です。

7. 閲覧は、カウンター前のテーブルでお願いします。

8. 論文の複写は著作権があるため、許可できるものと出来ないものがあります。複写希望の場合は係員にお申し出ください。

9. 複写の際は、「修士論文複写申込書」にご記入の上、係員に提出して下さい。

10. また、複写可であっても、修士論文全ての複写、修士論文複写申込書「全文複写」はできません。

全文複写希望の場合は、著作者からの許諾書が必要です。

詳細は、カウンターにお尋ね下さい。



申込年月日	平成 年 月 日	受付No.	
申込者氏名		所属	
著作者			提出年度
			論文No.
論文名			
利用目的			
殿 上記論文の著作権に関する一切の責任は申込者が負います。 住所 氏名 印			
上記論文の複写を許可します。 平成 年 月 日 著者 印			

注*「閉架式書庫」は、図書館に数カ所あります。

OPACの所在で「特別閲覧室」、「古典古書室」、「新2F電動林」「新2F電動管国」など「新2F電動・・・」、とでたら、カウンターの係員にお申し出下さい。学生の利用者は入庫できません。

同じく、「新3F電動書庫」、「新3F電動管理換」、「新3F小書庫」とでたら、カバン等の荷物をロッカーに入れてから、学生証を持ってカウンターへどうぞ。電動書架を開くカギを貸し出しますので、エレベーターで3階へ登り、自分で必要な図書を持ってきて下さい。

図書館からのインフォメーション

■ 図書館内 施設利用状況

図書館には、視聴覚室と多目的閲覧室、それに展示場があります。

視聴覚室は、大型プロジェクターやスクリーンが備え付けられ、ビデオやTV、パソコンからの映像を映し出してゼミ等に利用できます。また、これらを使用してのグループ学習やミーティングにも利用できます。最近の使用状況としては、ビデオを使つてのゼミや授業、研究会、各種会議などに利用されています。



多目的閲覧室は、平成17年3月にできた新しくきれいな部屋で、スクリーンがあり、グループ学習や各種研修、セミナーなどに利用されています。主な利用としては、学生のグループ学習での利用のほか、当図書館の企画展示の会場として平成18年7月24日(月)～8月11日(金)、文部科学省の委嘱事業「英語指導力開発ワークショップ」の会場として平成18年11月24日(金)～12月15日(金)、また、公開講座の会場としても前期・後期あわせて10数回の利用がありました。その他、「えるふえフォーラム」「コ

ロンビア教員研修」や事務部関係の各種研修等に利用され、特にプロジェクターを使つての利用が多いようです。



展示場は、学生等の研究作品の展示に利用されています。これまでも、絵画や彫刻、写真などバラエティに富んだ芸術性豊かな作品が展示され、来館した人々の目を引いていました。



展示中の展示物やこれまでの展示一覧は図書館HPから見ることができます。

続・カウンターから見る図書館

時間外職員 菅原 徳朗

図書館のアルバイトを始めてから10ヶ月あまりが過ぎ去りました。図書館のアルバイトを始める前から読書をするように心がけていましたが、手に取る本は自分の興味がある分野のものだけであったと思います。このアルバイトを始めることで、より多くの本に親しむことができるようになったのは事実です。図書館で働いていると、今まで手にしたことがなかった分野の本でも開いて見てみたいという衝動に駆られるときがあるのです。

図書館のようにたくさんの本に囲まれた環境に身を置くと、ふと手に取った本から今までにない興味・関心を引きつけられるかもしれません。図書を通して著者の考えに共感、反論したり、物語の中のイメージを頭の中で想像したり、人間の奥行きを深めるには読書をするということが欠かせないと思います。

是非、皆さんも図書館に足を運んで、様々な本を手にとって見てください。私たちも皆さんのよりよい利用環境を整備すべく、これからも頑張っていきたいと思っています。

■ 大塚文庫について

宮城教育大学附属図書館には、すでに、林文庫（元学長林竹二氏の旧蔵書）、岩間文庫、丸山文庫（仏教関係）、松本文庫（旧制第六高校教授松本彦次郎氏旧蔵書）や内ヶ崎文庫（宮城県黒川郡富谷町出身の旧蔵書で主に明治から昭和初期の教科書）などが個人文庫として収納されています。平成17年2月に元学長である大塚徳郎氏の蔵書を、宮城教育大学卒業生の現在仙台市博物館仙台市史編纂室長である鶴飼氏の仲介を経てご遺族から寄贈を受け、個人文庫として受け入れました。

大塚徳郎氏は、昭和50年4月1日～53年6月15日まで宮城教育大学附属図書館長であり、昭和53年6月16日～59年6月15日まで学長を歴任した人物です。

1914年（大正3年）11月生まれ、没年は平成14年9月、専門は平安初期政治史および古代東北史研究、著書には“平安初期政治史研究”吉川弘文館（1969），“坂上田村麻呂伝説”宝文堂（1980），“仙台藩重臣石母田文書”刀水書房（1961）などがあります。戴いた蔵書は、いわゆる図書といわれるものと学術雑誌、そして封筒などに入っている調査資料等の大きく三つに分けられました。

図書資料は、所在は新二階電動書庫の「大塚文庫」として別置しましたが、ほとんどの図書を貸出可能としました。1905年発行の新井白石全集から1999年発行の平泉中尊寺（歴史文化ライブラリー；59）まで、日本古代史および郷土史関係を中心とした図書が最終的に1509冊ありました。和雑誌は、製本済み雑誌が5種類と未製本の雑誌があり、館内の一連の雑誌の中に混配しました。

以上は目録情報係の仕事として日常業務の中で行われ、平成18年12月末で整理が終了しました。OPAC検索するとヒットする状態になりましたので、求める利用者、研究者がこれら資料を多く利用してくれるのを期待しています。

本学教員等著作寄贈図書一覧（平成18年1月～平成18年12月受贈分）

佐藤 静（教育臨床総合研究センター）

- ・こころサポート／佐藤静…仙台いのちの電話後援会、2006

横須賀薫（前学長）

- ・山に在りて：学長六年の記／横須賀薫著…本の森、2006

川村寿郎（理科教育講座）

- ・野外体験活動を入れた地域環境学習の系統的展開：効果的編成と支援の実践／研究代表者川村寿郎、2006

村上由則（障害児教育講座）

- ・脊髄性筋萎縮症児における残存運動機能を活用したコミュニケーション形成の研究／研究代表者村上由則、2006

吉村敏之（教育臨床総合研究センター）

- ・教育改革期における教師の学習指導力形成に関する研究／研究代表者吉村敏之、2006

板垣信哉（英語教育講座）

- ・小学校英語活動のカリキュラム及び指導者養成に関する研究：教員養成大学の立場から／研究代表者板垣信哉、2006

高瀬幸一（数学教育講座）

- ・可積分表現に付随した保型形式の次元公式の研究／研究代表者高瀬幸一、2006

花島政三郎（学校教育講座）

- ・学校教育が生み出す“教師の卵”の本質とは・・・：教師養成大学に学ぶ学生の証言から探る上、下巻／花島政三郎著…宮城教育大学花島研究室、2005
- ・教師の卵のボランティアリズムと「福祉」への視座：児童養護施設のこどもたちとの交わりを中心に／花島政三郎【編】…宮城教育大学花島研究室、2005
- ・「花島合研」「花島研究室」に学んだ者たちの軌跡／花島政三郎【編】…宮城教育大学花島研究室、2005
- ・養護施設児童の教育問題に関する調査研究：東北地方31施設の学習指導実態調査／宮城教育大学教育福祉学研究会…宮城教育大学教育福祉学研究会、1983
- ・教護院における指導のあり方に関する調査研究報告書／花島政三郎【著】…宮城教育大学教育福祉学研究室、1989

市瀬智紀（国語教育講座）

- ・地域における定住外国人の主體的な日本語学習に関する縦断的調査・研究／研究代表者市瀬智紀、2006

立原慶一（美術教育講座）

- ・小学校図画工作科における知性教育の理論的及び実践的研究：新内容「伝え合いたいこと」（5、6年生）を手がかりとして／研究代表者立原慶一、2006

平成18年度の特別展示企画と常設展示の報告

数学教育講座

萬 伸 介

(1) 特別展示企画について

第二回目となる宮城教育大学附属図書館特別展示企画「歴史のなかの教科書」は「算術・算数と数学」をテーマとして平成18年7月26日（水）から8月4日（金）と8月7日（月）の期間に開催（29、30日の土日も開催）されました。開催場所は附属図書館1階多目的閲覧室で、開催時間は毎日午前10時から午後4時でした。附属図書館所蔵の小学校・中学校・高等学校の教科書を年代順に展示しました。この中には、数学の教科書としては珍しい「墨ぬり」教科書（宮城師範学校で使用）や昭和45年発行の複式学級用教科書（小学校）も展示されました。最近教科書で取り上げられている「和算」に関連して、附属図書館所蔵の「九数百好」（仙台藩士の戸板安佑 著）をはじめ和算書のいくつかを展示しました。また、東北大学から東北帝国大学教授であった林鶴一に関わる和算関係の資料（算盤、算木 等）の展示協力を得ることができ、数学教育講座所蔵の「林鶴一蔵書」から林が編纂した教科書数点も展示しました。さらに、記念講演会を開催し、東北大学名誉教授 土倉保 氏を講師にお迎えして江戸時代にベストセラーであったいくつかの和算書の丁寧な解説紹介をしていただきました。

見学参加された方々からのアンケートからいくつかを紹介します。

- ・教育大学の特性を生かした展示を今後も企画して欲しい。
- ・算数、数学と格闘した日々が甦りました。
- ・昔の教科書のほうが難しいと思いました。自分はゆとり教育で教育されたので、この先不安になりました。
- ・教科書は時代ごとにみるとその時代背景が見えておもしろいです。
- ・終了時刻をのばしてほしい。ゆっくりと展示を見る時間がとれず残念です。
- ・江戸時代の日本の数学のレベルの高さを感じた（記念講演会）。
- ・和算は難しいと思ったが丁寧な話で面白かった（記念講演会）。



(2) 常設展示について

平成18年度宮城教育大学附属図書館常設展示は「明治から平成までの『算数』」というタイトルで平成18年10月10日から平成19年3月30日まで開催されました。明治～昭和初期の国定教科書「黒表紙」教科書から平成の教科書までを、その変遷を3期に分けて紹介するものでした。「緑表紙」教科書、「単元学習」の教科書、「現代化」の教科書、「ゆとり教育」の教科書、最近の教科書の英語訳版、等が展示されました。各教科書を見開きで展示し、その内容をより一層理解しやすくしました。また、各期2回、計6回の解説タイムをもうけ、附属図書館2階の第二展示場で展示資料の解説をしました。



常設展示に対する見学者のアンケートから

- ・昔の算数の方が日常にかかわっている算数を中心に扱っていると感じた。
- ・複式学級の教科書を初めて見たのでとても参考になった。
- ・現教科書までの流れがわかりとても良かった。

(3) 特別展示企画と常設展示を終えて

特別展示企画を終えて、今後もこの企画を継続する意味があることを強く感じ、そのためにも附属図書館として教科書関係の資料の充実を努めなければならないと思いました。常設展示も多くの方が見学し、解説時にも多くの質問が出され、学生の意識の強さを感じました。しかし、もう少し多くの学生の見学を期待したいものです。

「数学」に関わる展示にどのくらいの人々が興味をもつのか不安でしたが、想像以上に多くの一般の方々と学生の方々が展示会に来ていただき「教科書」の展示の重要性を改めて認識しました。

最後に、今回の企画に関わった者として、ご協力をいただいた東北大学及び本学の教職員の方々にお礼申し上げます。特に、本学数学教育講座ならびに森岡正臣教授、田端輝彦助教授の支援に対しお礼申し上げます。

特集記事：私の本棚から一心に響いた本



落日の宴
吉村昭著 講談社



国家の品格
藤原正彦著 新潮社



奇貨居くべし
宮城谷昌光著 中央公論新社



徳川家康
(山岡荘八歴史文庫、26)
山岡荘八著 講談社



ウェブ進化論：
本当の大変化はこれから始まる
梅田望夫著 筑摩書房



さっちゃんのまほうのて
たばたせいいち、先天性四肢障害児父母の
会 のべあきこ、しざわきよこ／共同制作
偕成社

『落日の宴』

(吉村昭著、講談社、1999年)

この本は幕末における江戸幕府の幕使としてロシアとの外交交渉を行った勘定奉行川路聖謨について書かれたものである。

日本とロシアの交流は1854年日魯通好条約が調印された時から始まったが、その交渉は1853年6月、アメリカのペリー艦隊が浦賀にあらわれた1ヵ月半後の7月18日、ロシア使節・極東艦隊司令長官プチャーチン（ニコライ1世の侍従武官・伯爵）が軍艦4隻をひきいて長崎に着き、同年12月の会見からはじまった。

当時の日本は幕末の動乱期にあり、また諸外国から開国をせまられ、一步道をあやまれば諸外国の植民地になりかねない激動期であった。ロシアとの交渉も国境問題、通商問題等きわめて困難であったが、平和的・友好的な形で条約を調印できたことは



財務担当理事・副学長
(事務局長) 高尾 展明

川路聖謨の秀れた能力と人間性に負う所が大きく、対ロシア外交における最大の功労者である。

プチャーチンの秘書官ゴンチャロフは川路をこう評している。

「川路を私達はみな気に入った。……川路は非常に聡明であった。彼は私たち自身を反駁する巧妙な弁論をもって知性を閃かせたものの、なおこの人を尊敬しないわけにはいかなかった。彼の一言一句、一瞥、それに物腰までが、すべて良識と、機知と、炯眼と、練達を顕していた。」

近隣諸国をはじめ諸外国との外交が益々重要になっている現在、川路聖謨のような卓越した外交能力と豊かな人間性をもった人材を今、必要としている。

『国家の品格』を読んで

(藤原正彦著、新潮社、2005年)

施設課長 前田 喜一

既に多くの方が読み終えており紹介するまでもないと思いますが、ベストセラーまでなったこの本を読み終えて、日本人として日本に生まれて良かったと改めて感じた。

多くの諸外国の先人たちも日本人の心に美的感受性とか惻隱の情とかの土壌がDNAとして受け継がれていることに賞賛している。著書の中で何度も言っているが「武士道精神」を今こそ忘れてはいけないと考えさせられた。現在国内の政治でも「美しい日本の再生」を掲げているが、正にこの精神に裏打ちされた四つの愛（家族愛・郷土愛・祖国愛・人類愛）を教えることがすなわち美しい日本の再生につながるのではないかと思う。

日本が高度経済成長を遂げてきて暮らしが非常に豊かになった反面、国家の品格が失墜したということであるが、育ってくる

段階で道徳を重んじる教育を受けてきた私たちにとっては嘆かわしいことである。

今後、経済成長を犠牲にしてでも品格ある国家を目指して行くべきであり、しいては防衛力にもなるという考えは私たち一人一人が気付き自覚して美しい情緒と形を身に付けなければならないと共感した。

真の国際人となるには英語を覚えうまく話せるようになるのではなく、国語をきちんと勉強することが大切であること等今こそ日本人が忘れかけている精神を取り戻さなければならないと動機付けさせてくれる著書である。

年が改まったときに静に本を読みこれからの自分の生き方に少なからず自信を与えてくれた一冊となった。もし、まだ読んでいない方がおられましたら是非一読することをお薦めしたい。

『奇貨居くべし』

(宮城谷正光著、中央公論新社、1997-2001年)

総務課課長補佐 芳賀 茂

我家には、本棚と呼べるものはない。らしいものはあるが、雑多な小間物に侵され、本の居場所には僅かなスペースが与えられているだけであり、そのかわり、寝室が彼らのフリースペースとなっている。それでも、物事には限度というものがあり、可愛そうではあるが物置や箆笥の引出しに奥深く強制冬眠（今年の熊のように）させている。（図書館では、こんな本を活用する、「無駄な本コーナー」なんてものを設置する予定はないのだろうか。）

今回紹介させていただくのは、以前、先輩からいただいたもので、冬眠中の本「奇貨居くべし」（宮城谷正光作、中央公論）である。春風、火雲、黄河、飛翔、天命の5編に分かれている。

戦国時代の韓の国の陽翟という邑の商家の次男坊「呂不韋（秦の始皇帝の父とも言

われている。）」が家を出て、大賈人となり、その後、政治の道を志し、やがて秦の宰相となる生涯を描いた物語である。大賈人として備えていた自身の資質への反問と離別そして目指すこととした政治への憧憬とその実現のための自己変革を学問のみならず生活のための労働を通じて獲得していく様子が清清しく明快に描かれている。その中で、彼（15歳）が始めて旅にでたとき、従者の手配により若い舞子が生活のため彼に肌体を晒した際の彼の心情を、「今の自分が裸で世間に突き出されても、精神のかたちができていない限り、それを包む肉体はなんの意味もなさず、無残に砕け散るばかりである。」と描かれている部分に彼の原点が感じられます。広大な大地に繰り広げられた彼の人生を辿ってみてください。活字の中に映像が見えてくるでしょう。

『徳川家康』の歴史文庫など

(山岡荘八著、講談社、1987年)

就職・連携課、就職支援室長 若生 東英

心に響いた本を紹介するコーナーと聞くと、ちょっと引いてしまいますが、ざっくばらんに、私が読んで面白かったな、というものを御紹介します。若い頃はジャンルにこだわらず何でも読みましたが、古い先が短くなるに連れて、時代物に偏ってきました。ということで、最初に、山岡荘八の歴史文庫100巻はどうでしょうか。「徳川家康(24巻)」、「豊臣秀吉(8巻)」、「伊達政宗(8巻)」、「織田信長(5巻)」など、歴史上の人物の生き様をリアルに書いてありますので読んでいて飽きないですね。現在、私は全100巻の内、折り返しを少し過ぎたあたりでしょうか。

次に、池波正太郎の作品もいいですね。「剣客商売シリーズ」、「鬼平犯科帳シリーズ」、「梅安シリーズ」など、人情味や、豪快さ、小気味のよさなどワクワク、ドキドキと快適にさせてくれます。

また、じっくり読むなら、藤澤周平の作品がいいですね。これらはあまり日の当たらない下級武士などを主人公にしたものが多いです

ね。困苦に耐え、懸命に、ひたむきに生きる主人公の姿、そして、その中にほんのりとした優しさや人情が感じられますよ。

そのほか、最近読んだもので、山崎豊子の「沈まぬ太陽(5巻)」(航空会社に勤める主人公がひよんなことから労働組合の委員長を引き受け、左遷され、様々な困難に耐えるも、巨大組織に翻弄され続ける人生を描いたもの。)、三田誠広の「空海」(空海が高弟たちを前に、自らの生い立ちからその時点までを回想したもの。)、堀和久の「天海」(武家の出でありながら天台宗の僧となり、家康の絶大なる信頼を得て相談役にまでなった人物伝。)、また、娘から借りて読んだ、東野圭吾の「手紙」(殺人犯の兄とその弟につきまとう運命を描いたもの。)、浅田次郎の「地下鉄に乗って」(父との葛藤、そして、地下鉄を通してタイムスリップし、父の謎の生い立ちを明らかにして行くもの。))なども面白かったですよ。

まずは、肩の凝らないものからトライしましょう。

『ウェブ進化論』

(梅田望夫著、筑摩書房、2006年)

学務課、実習支援係 庄司 欽也

グローバル化、ボーダレス化が進展し、国際的流動性が高まっている現代社会は、年々相互依存関係や競争的關係が強まっている。それ故、世界の人々の文化、習慣、価値観を理解することや、世界の動きをリアルタイムで把握することが重要となっている。その為の重要なツールの一つが、インターネットである。

この本は、「Google」というその分野を代表する企業について、起業～現在～未来について詳細に解説するとともに、近未来のインターネット関連事業の行く末や進化の速さに関しても分かり易く記述している。また、著者の梅田望夫氏は、「Google」本社

のあるカリフォルニア州シリコンバレー在住ということもあり、様々な裏事情にも精通しておられるようであり、全般的に大変興味深い内容になっている。

この本を読み、現在では既に、インターネットを経由して、世界中の鳥瞰写真や月の表面の写真を自宅に居ながら閲覧することが出来たり、2,500MB以上の空き容量のあるフリーメールが使用できるのかと感心し、更に、その業界の進化に対応し、日常生活や仕事上有効活用できるよう、日々アンテナを張り巡らせ、自己研鑽を積まなくてはと、この本を読んで強く感じた次第である。

『さっちゃんのまほうのて』

(田畑精一 [ほか] 著、偕成社、1985年)

学務課、学生企画係 安久津早紀

先天性四肢欠損という障害を持って生まれてきた主人公のさっちゃん。右の手の指だけないさっちゃんは幼稚園のままごと遊びで、お母さんの役をしようとしたが、みんなから「手のないお母さんはへん」と言われ、幼稚園を飛び出してしまいます。

さっちゃんはお母さんに「小学生になったら、さっちゃんの指、はえてくる？」と問いかけますが、「もうはえてこない」と言われてしまうという、厳しい現実をつきつけられます。

しかし、さっちゃんはお父さんに「さち

この手は魔法の手」と励まされたり、弟ができたりという、うれしいことが続き、だんだん元気を取り戻していき、また幼稚園に通い始めます。

この作品には現実に向き合い力強く生きる子どもの姿が書かれています。『さっちゃんとまほうのて』という題名に興味を持ち、初めて読んだのは小学校2年の時。この作品を読んでから、何年経った今でも忘れることはできません。みなさんもぜひ読んでみてください！

Book of days... ～読書とパズルと、時々、時刻表～

附属学校課、会計係 岩森 俊

趣味が読書ということで、親には「あなたには本を預けて留守番させておくと楽だった」といわれたくらい、私は昔から本が好きである。今でも書店、家を問わず、1時間も2時間も本と一緒に過ごしていることが多い。たまに旅に出るときは、時刻表を片手に悪戦苦闘しながら、行ってみたいところ、気になるところを探しつつ（最近パズルが多いから本とペンをもって）、ゆっくりと移動している私がいる。

書店でまず目にするのは、平台に積み上げられている本の数々である。あるときは文学賞受賞者の新刊、またあるときは脳を鍛えるドリル、またあるときは鉛筆で古典文学を書く等、そのときの流行が積み上げられている。書店は時代がよく見える空間でもある。

1冊の本を読んでわからなければ、書店や図書館にはその分野の本が他にもあるため、探して調べることもできる。図書館も書店も雑学の宝庫であり、巨大な百科事典であり一番大きな「私の本棚」である。

今までたくさんの本と出会った。高校時代から多く読んだのが宗田理氏の「ぼくら」シリーズ。この本の中には「純粋な子どもたち」がいた。大人の善悪ではなく、「純粋な子どもたちの目線」で善悪を考えて大人達と戦っている姿が、真面目でありながらたまには滑稽なこともあって面白い。純粋な気持ち(?)で読んでいた記憶がある。

そのほかにもたくさんの本を読んでいるが、何度読んでも飽きない、全てがわかっていてもおもしろい、たくさんの本と出会えたことが、今の私の貴重な財産である。

最近は時間があまりなく、速読で終わることも多いが、本を1回読むだけでは見えなかった視点も改めて読むとわかる。時刻表も然り、列車名やルートを考えながら見ていると、旅に出ているかとも旅をしている気分になり実際に行ってみたくなるものである。

本を読むのは本当におもしろいし奥が深い。そうやって夜は更けていく。

第6回 学生の読書室 ～私が選ぶこの一冊～



『理解という名の愛がほしい（おとなの小論文教室2）』

（山田ズーニー著、河出書房新社、2006年）

大学院：小川利則

この本には原稿用紙の使い方や合格する小論文の書き方、困ったときのレポートの埋め方といったものはありません。あらかじめあきらめて下さい。

そもそも、「評価を得るために書くこと」の助けになるには、*たぶんこの本は書かれていません*。試験前に読んでも明日の試験の準備にはなりません。

この本には、具体的な失敗場面がでできます。

1/3はニヤニヤし、1/3は反感を抱き、1/3は思い当たって逃げ出したいくなります。それはまぎれもなくこの本のせいなのですが、本に当たらないで下さい。破れます。

良くも悪くも気持ちをゆさぶります。しかし堂々と素通りしていくこともあります。劇的な変化は期待しないで下さい。薦めている本人も期待していません。

無骨な言葉の原石を自分の中から掘り出すお手伝いをします。誰かの言った宝石のような言葉がほしい方は他を当たって下さることをおすすめします。

短くてもつたなくても自分の想いを自分の言葉で伝えようとする、そんな人の背中を少し押すだけ。それぐらいでよければどうぞ。

『甲子園の心を求めて』

（佐藤道輔著、報知新聞社、1999年）

1年 佐久山 要

この本はこれから教師になって運動部を指導したいと思っている人にお勧めだ。教育現場における部活動の在り方について考えさせられた。

題名から想像して頂けるとは思うが、本の中には野球用語が結構出てくる。なので、野球に対する知識が少ない人は読むのに苦労するだろうが、野球を通して著者が伝えようとしていることは、十分理解できるだろう。

高校2年の冬に読んでから、部活動をする意味についてよく考えるようになった。遊びたい気持ちを我慢してなぜ部活動をするのか、大学に行くためや就職するために勉強しなければならないのになぜ部活動をするのか。などの疑問のような葛藤に対する答えのヒントを与えてくれた本である。私が教師を目指しているきっかけを作った本でもある。興味のある人は一度読んで頂きたい。

『もの食う人びと』

（辺見庸著、角川書店、1997年）

3年 齋藤智佳

バングラディッシュのスラム街には、お金持ちの残飯を主要な食事としている人々がいます。タイには低賃金で日本のペットのための缶詰を作っている人々がいて、ソマリアには何も食べることが出来ずに飢餓によって死んでいってしまう人々がいます。これらの事実を知った時、私はとてもショックを受けました。

この本の中には、著者の辺見先生が世界を旅する中で見て聞いた私の知らない「食」の現実、「食」の歴史がありました。とてもショッキングな内容でしたが、今日本に暮らす私にとっては遠い国のことで、この本を読んだ今もなお「食」に対して身に迫る危機感を持つことは出来ません。しかし、私は「食べること」が生きることに直結しているということを初めて強く意識しました。食に対して無意識になることは、生きていくことに無意識になることにも通じると思っています。

日本もいつまで飽食の現状が続くかわかりません。今この瞬間、世界には切実に「食」を求めている人々がいます。

『“子連れ出勤”を考える』

(アグネス・チャン、原ひろ子著、岩波書店
1988年)

3年 小野 あずさ

冬休み、ブックレット読みが課題となりました。短かったのですが、勉強になったので、お勧めします。私の読んだのは、『“子連れ出勤”を考える』(アグネス・チャン+原ひろ子 岩波ブックレットNo.122 300円)でした。

この本はアグネス・チャンと原ひろ子の対談

が記されています。主なテーマは乳幼児の育つ環境についてです。私が特に面白かった点は、日本と他国の考え方の違いを述べていたところ
です。アグネスは香港人で、一人目の子供をカナダで産んだという経験があるので、国によって育児方針に特徴があることを学んだそうです。「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきについて」の考え方が国によって違うと言っています。ある国では育児をしているお母さんを国の人全体で支えるのが常識というところもあります。これからの日本社会も、もっと育児をしやすい環境を作っていく必要があると思います。

『ごんぎつね』

(新美南吉 作 黒井健 絵 偕成社、1986年)

3年 相澤 知佳

この『ごんぎつね』は小学校の教科書用教材として広く使われているので、皆さんも、一度は読んだことがあるだろうと思います。しかし、大人になった今だからこそ、もう一度このお話を読んで欲しいと思います。私は約十年ぶりにこの絵本を読みましたが、当時には気づかなかった、新美南吉の言葉の繊細さや、その言葉がもつ意味を感じ取ることができた気がします。図書館には何冊か、ごんぎつねの絵本が置いてありますが、中には原文と少し変えて書かれているものもあります。二冊を読み比べることで、言葉の印象の違いを感じてみるのも面白いのではないのでしょうか。

お話の最後にあるごんの死が、かわいそうで不運な死であるか、それとも、最後に兵十に理解してもらえて幸せな死であったのか、どちらに感じるかは、読み手が、それまでの話のそれぞれの場面を、どう捉えて読んでいったかによって変わるはず。もちろん、どちらの感じ方でもないという人もいるでしょう。しかし、どのような感じ方であっても、自分なりにじっくりとこの話を読んだから生まれてきた感情なのであれば、そのどれもが答えとなるのだと思います。

教師になり、教材としてのごんぎつねという作品に再び出会う人も多いかと思いますが、そうであっても、そうでなくても、純粋に、新美南吉が描くこの作品の世界を味わって欲しいと思います。

『さかなはさかな』

(レオ・レオニ 作、谷川俊太郎 訳、好学社、1975年)

3年 鹿志村 知代

この絵本の作者は、『スイミー』でお馴染みのレオ・レオニ。ページをめくる毎に、柔らかな色使いで描かれた、キラキラとした水中の様子が目に飛び込んでくる、とてもきれいな絵本です。

私がこの絵本を読んでみて、特におもしろかったところは、小魚がずっと仲良くしてきた友達のオタマジャクシに、手足が生え、そこで小魚が自分の友達が自分と同じ魚の子ではなく、カエルの子もだったということを知らされたという場面でした。その場面から、私には小魚の表情がイライラとしたものになっているように感じられ、おそらくその時の小魚は、友達と思っていたカエルに裏切られたような悲しい気持ちや、自分がこれからはずっと(大きな変化のない)魚であるということに対しての憤り、羨ましさのようなもので胸がいっぱいだったのではないかと、思いをめぐらせることができました。また、その他にも魚が(水の)外の世界の様子をカエルに聞き、一生懸命に魚の姿の人間や鳥などを想像しているという場面も、とても微笑ましいものでした。

このように、この本は全体として文章が少ないため、かいてある文章や絵から、どんどん想像力が掻き立てられ、自由に想像を膨らませることができます。読み手によって、いろいろな捉え方ができる本だと思います。ぜひ一度手にとって、読んでみてはいかがでしょうか。

ここは学生の皆さんが最近読んだ本、印象が強かった本、お勧めの本などについて自由に選んでいただき紹介してもらうコーナーです。図書のみとし、雑誌は除外しています。

たくさんのお原稿が集まりました。ありがとうございました。

いただいた原稿を編集委員会で選定し掲載させて頂きました。

今後もこの企画を継続していきますので、皆さんからの投稿をお待ちしています。

ここに紹介する本は図書館入り口の書架に「学生の読書室」として配架しています。

【原稿大募集】

次号発行は7月の予定です。

名前、所属、学年、連絡先と、紹介する本の書名、著者名、出版社を記入の上、400字以内で、図書館カウンターにフロッピーディスクで、または下記アドレスへお送り下さい。

尚、「こもれび」の記事は図書館のホームページでも公開されます。

mokuroku.seiri@staff.miyakyo-u.ac.jp

図書館に所蔵していない図書については、学生希望図書として図書館に購入希望を出していただくことも出来ます。

新任教員からひとこと：『私と図書館』

異空間に浸る

理科教育講座

内山哲治

私にとって図書館は、異空間である。それは、雑多な日常生活を忘れて、一人静かに居られる場所である。かつ、その時間は正しく至福である。

記憶にある最初の図書室は、小学校の時間割に出てくる。週一回の静寂の中での苦行の場所であった。家では本を読んでいたが、友達が居ると遊ぶことしか考えられなかった。中学校では、果たして一度でも図書室に行ったことがあるだろうか？友達と推理小説の貸し借りはしたが、記憶の中に中学の図書室はない。いや、今、図書係りもしていたことを思い出した。何をしていたのか？？高校では、寮生活だったので寮の図書室に行った。先輩の命令を避けるためである。しかし、この頃から近代文学をよく読むようになった。それで、高校の図書室にもよく行った。自分の好きなことしかしなかったもので、明治・大正の文学に触れて、数学・物理を考えながら日々を過ごしていた。

勉強すると言う意味で一番図書館を利用したのは、大学に入ってからである。特に一年生の時である。まだ教養部というものがあり、文化人類学やら心理学やら普段見たことも聞いたことも無いような科目をとらなければいけなかった。しかし、レポートのために図書館でいろいろ調べるのは面白かった。長いレポートを書くことは苦手なので辟易していたが、いろいろな文献を漁るのは好きだった。大学の図書館は公立図書館と違い、一般書から専門書・論文と種々あり、居るだけで楽しかった。いつの間にか図書館の静寂にも慣れていった。

大学院では、主に論文を探しに図書館に詰めた。今は、インターネットが張り巡らされているので、パソコンから図書館の蔵書検索も出来れば、論文をダウンロードすることも出来る。しかし、10年近く前は、電算化が進んでおらず一年毎に製版された

分厚い論文誌を書庫から取り出して調べていた。最初は、書庫の中でよく迷った。目的の論文ではなくて、たまたま見つけた違う論文を読み始めることもあった。それが役に立つことが多かった。今は部屋から調べがつくので、図書館で迷うなんてことも無くなって来ている。便利になった反面、新たな発見が無くなった気がする。また、この頃一番好きだったのが、土曜日の午前中、図書館で一人静かに論文誌の最新刊に目を通すことだった。といっても、ボーっと余所見ばかりしていたのだが。数人しか居ない大きな図書館の中で、論文誌を机に置いて、ポカポカ陽に当たりながら2階の窓からボーっと外を見る。アンニュイな時間を過ごした。正に至福の時だった。

宮教大に来る前は、家から公立図書館が近かったのでよく行った。行くと日がな一日居る。しかし、妻に怒られた。子供の面倒を見ないからである。子供を連れて図書館に行くと、自分の本を探す時間さえ与えてもらえない。仕方なく、紙芝居を読んでいる。私の至福の時は、どこに行ったのか？仙台では、公立図書館が遠くなった。車で出かけないといけない。図書館はホールの横にあり、ちょっと手狭な感じがした。ここで至福の時間を得られるだろうか？先日、初めて大学の図書館に行った。ビックリしたのだが、子供の本が置いてあった。さすが教育大だと思った。係りの人に聞くと、一般の人が来てもいいと言うので、休みの日に子供を連れてきた。私のカードをフルに活用して、子供は本を借りた。連れて来るべきではなかったかも知れない。ここでは、紙芝居を読まなくていいのだけが、救いである。

何年か後にこの文章を読んだら、私はどう思うのだろうか。果たして至福の時間を過ごしているのだろうか？

表紙の解説

葉緑体を持たない植物 —ギンリョウソウ—

学務課教務係長
佐藤 秀二

一般的に植物は葉緑体を持ち、太陽のエネルギーと水、二酸化炭素による光合成で栄養を作り、自身の成長や子孫を残すために使います。これを「独立栄養生物」と言います。一方、私たち人間を初めとする動物や一部の植物は、他の生物から栄養を得ることから「従属栄養生物」と呼ばれています。

さて、5月末から6月にかけて青葉山を歩いていると、薄暗い林床の落ち葉のたまった所に高さ10～15センチの、何とも怪しげな白いものが群生しているのが見られます。これはギンリョウソウ(銀竜草)といい、白銀色で下向きに咲いた花と鱗片状の葉の姿を、竜が首をもたげたように見えることから名付けられたものです。一見キノコに見えるところからユウレイタケ(幽霊茸)とも呼ばれていますが、れっきとした植物で、蜜を求めて虫も集まる虫媒花です。ご覧のように全身真っ白で、葉緑体を伺わせる緑色の部分はなく、光合成をしない植物です。

では、どのようにして栄養を得ているのでしょうか。実は、根の部分に菌類が付着しており、その菌類から栄養を得ているのです。このような根のことを「菌根」といい、菌根からの栄養に完全に依存している植物を「腐生植物」と言います。しかし、腐生植物という用語は、あたかも腐生した植物等から栄養を得る能力が植物自体にあるかのような誤解を招くことから、最近は栄養を摂取する方法を表す「菌従属栄養植物」という用語が使われるようになりました。

表紙の写真は、長雨に打たれたため透けて黄色い雄しべが見えていますが、普通は白色か白銀色の不透明な花です。また、毎年同じ時期に咲くとは限らないうえ、チョットした傷でも痛みやすいので、このような綺麗な姿はなかなか見られません。この花は、花後には予想もしない姿に変身するので、花を見られなかった方のためにご紹介します。



中央の濃い青色部分が雌しべで、黄色部分が雄しべ。



花後の姿

編集
後記

この青葉山でもほとんど雪に悩まされることなく冬が終わりを告げ、新たな春を迎えました。新入生の皆さんの新鮮な感性での声をお待ちしております。そして3月でご卒業の皆さん、何かの折々に母校の図書館をご利用ください。きっとお役に立つことがあると思います。新任教員の内山先生の寄稿にあるようにお子様を連れてこられても嬉しいです。

今回は「私の本棚から一心に響いた本—」という特集を企画しました。寄稿をお願いしたのは、日頃、陰に日向に大学運営に携わっている事務局の方々です。年齢も経験も違うさまざまな立場で、余暇を見つけての読書の中で、心に響いた本を紹介して頂きました。これをきっかけに事務局の方々の図書館利用が増えることを願っております。

また、4月からはちょっと使いづらかった2階のトイレが今風にリニューアルされてお目見えます。さらに居心地の良い空間提供をめざしていきます。(Y.S.)

平成19年度開館カレンダー

4月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

10月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

5月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

6月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

20年1月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	

9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

3月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

通常開館	月曜日～金曜日	9:00～21:30
土・日開館	土曜日・日曜日	10:00～17:00
休業期間中	月曜日～金曜日	9:00～17:00
休館日	国民の祝日・本学創立記念日・年末年始・本学学位記授与式当日	

注1：平成20年1月19日～20日は大学入試センター試験のため休館します。

注2：その他の臨時休館または開館時間を変更する場合は、その都度掲示等によりお知らせします。